

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和4年3月3日（木）

### 2 確認箇所

G4北タンクエリア、G5タンクエリア

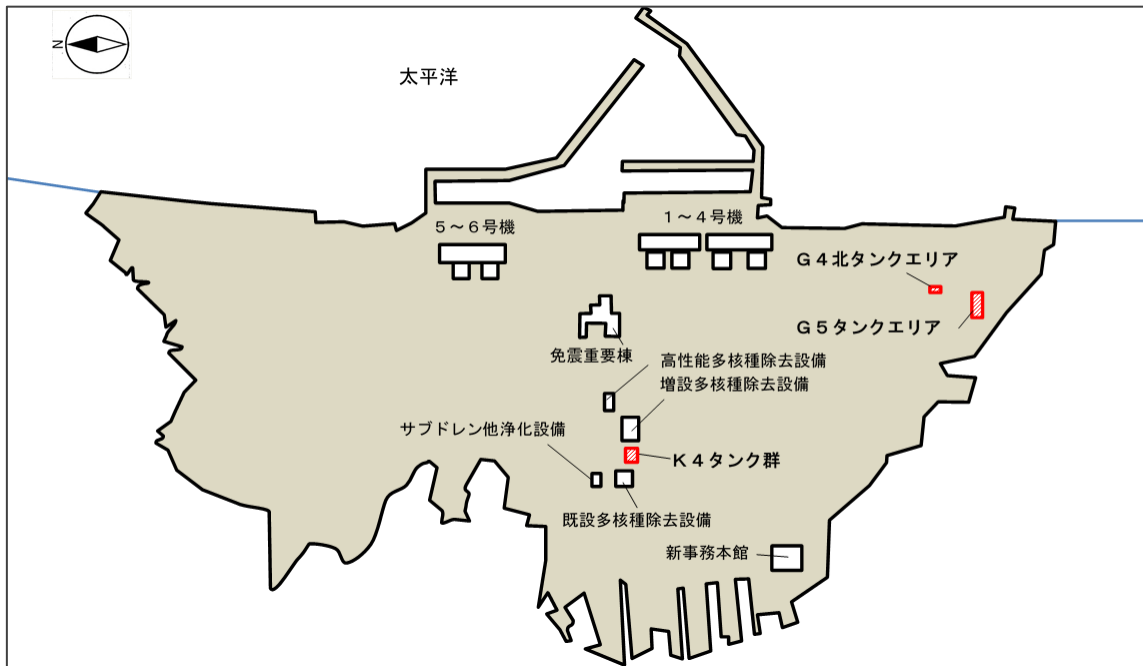
### 3 確認項目

G4北タンクエリア及びG5タンクエリアにおける溶接型タンク設置工事の進捗状況

### 4 確認結果の概要

東京電力では多核種除去設備処理水の海洋放出にあたり、K4タンク群の用途を変更して放射能濃度の測定、評価用の設備を新たに構築することとしている。K4タンク群を用途変更することに伴う代替として、G4北タンクエリア及びG5タンクエリアに多核種除去設備処理水等を保管する溶接型タンクを設置する工事が令和3年7月から開始されていたが、同年12月に溶接作業中の作業員の熱傷災害が発生したことから一時作業が中断されていた。今年1月から再発防止対策が実施され作業が再開されたことから進捗状況を確認した。（図1）（前回確認：[令和4年1月21日](#)）

- ・現地溶接型の容量1,356m<sup>3</sup>のタンクがG4北タンクエリアに6基、G5タンクエリアに17基、設置される計画となっている。
- ・G4北タンクエリアでは、全6基のタンクの塗装作業まで完了しており、現場確認時には今後設置予定のタンク連結管の搬入作業が行われていた。（写真1）
- ・G5タンクエリアでは全17基中13基のタンクが設置されており、一部のタンクでは底板や胴板の溶接作業が行われていた。（写真2）
- ・東京電力では昨年発生した作業員の熱傷災害を受けて、耐火服の健全性確認等の再発防止対策を実施しているが、新たな対策として溶接時に用いる自動溶接機に火種飛散防止用のカバーが設置されていることを確認した。（写真3）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)  
G4北タンクエリアの状況  
(前回(1月21日)南西側から撮影)



(写真1-2)  
同左  
(今回(3月3日)南西側から撮影)



(写真1-3)  
タンクの連結管の搬入作業



(写真2-1)  
G5タンクエリアの状況  
(前回(1月21日)南西側から撮影)



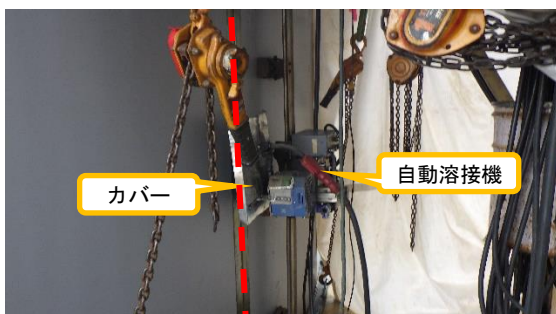
(写真2-2)  
同左  
(今回(3月3日)南西側から撮影)



(写真2-3)  
底板溶接作業の状況



(写真3-1)  
火種飛散防止用カバール



(写真3-2)  
自動溶接機及び火種飛散防止用  
カバール  
(赤線が胴板の溶接箇所)

5 プラント関連パラメータ等確認  
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。